

TPP協定による本県農林水産業への影響⑧<野菜総括、メロン>

【園芸作物(野菜)】

【本県主要野菜のTPP合意内容と輸入状況】

品目	現行関税	TPP合意	国内生産量①(t)	県内生産量②(t)	県内シェア②/①	県内産出額(億円)	農業産出額に占める割合	輸入量③(t)	輸入シェア③/(①+③)	主な輸入先国(輸入量t)	うちTPP交渉参加国		
											輸入量④(t)	輸入シェア④/(①+③)	
すいか	6%	即時撤廃	357,500	33,800	9.5%	50	(2.2%)	726	0.2%	米国(548) メキシコ(139) 韓国(39)	米国 メキシコ	687	0.2%
メロン	6%	即時撤廃	167,600	12,600	7.5%	33	(1.4%)	28,921	14.7%	メキシコ(22,460) 米国(5,981) 韓国(474) ニュージーランド(6)	米国 メキシコ	28,441	14.5%
きゅうり	3%	即時撤廃	548,200	14,900	2.7%	39	(1.7%)	11	0.0%	米国(9) 韓国(2)	米国	9	0.0%
トマト	3%	即時撤廃	739,900	11,000	1.5%	39	(1.7%)	7,736	1.0%	米国(2,988) 韓国(3,164) ニュージーランド(982) メキシコ(169) カナダ(130) オランダ(303)	米国 ニュージーランド メキシコ カナダ	4,269	0.6%
えだまめ	(生鮮) 3%	即時撤廃	67,000	6,280	9.4%	29	(1.3%)	578	0.9%	台湾(578)	-	0	0.0%
	(冷凍) 6%	6年目に撤廃	-	-	-	-	-	(冷凍輸入量) 70,205	-	台湾(28,764) 中国(19,813) タイ(18,616) インドネシア(3,125) ベトナム(86)	ベトナム	86	-
ねぎ	3%	即時撤廃	483,800	9,990	2.1%	24	(1.0%)	55,307	10.3%	中国(55,112) ベトナム(195)	ベトナム	195	0.0%
アスパラガス	3%	即時撤廃	28,500	1,420	5.0%	12	(0.5%)	11,741	29.2%	メキシコ(6,610) オーストラリア(2,360) ペルー(1,328) 米国(348) ニュージーランド(133) タイ(499) フィリピン(379)	メキシコ オーストラリア ペルー 米国、 ニュージーランド	10,779	26.8%
にら	3%	即時撤廃	61,400	3,000	4.9%	10	(0.4%)	不明	-	不明	不明	-	-

(生産量・輸入量：H26農林水産省野菜生産出荷統計、H26財務省貿易統計
産出額：H25農林水産省生産農業所得統計)

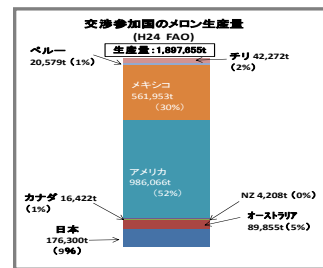
【本県主要野菜のTPP合意内容と輸入状況】

- 本県主要野菜の現行関税率は、すいか、メロンの果実的野菜と冷凍えだまめが6%、その他の主な野菜は3%であり、今回のTPP合意により、冷凍えだまめを除き、関税率は即時撤廃となる。
- TPP交渉参加国からの輸入が多い品目は、アスパラガス(輸入シェア26.8%)、メロン(14.5%)、トマト(0.6%)で、その他の品目の輸入量は極めて少ない。
- えだまめやねぎは、中国や台湾等交渉参加国以外の近隣諸国からの輸入が多い。

⇒ 交渉参加国からの輸入量が多い、メロン、トマト、アスパラガスの3品目について以下のとおり影響イメージを整理・作成。

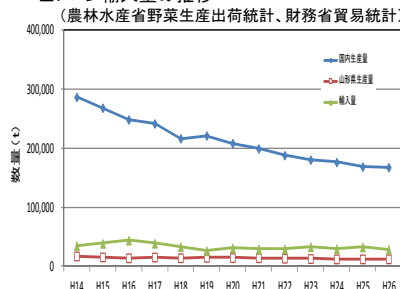
【メロン】 (大筋合意内容：現行関税率6%→発効時に即時「撤廃」)

■交渉参加国の生産量



- TPP交渉参加国で植物検疫上も問題なく日本に輸出できるのは、上記の国のうち5カ国(アメリカ、メキシコ、カナダ、ニュージーランド、チリ)で、その生産量は約161万tで、アメリカ、メキシコが生産が多い。
- 日本の生産量は交渉参加国全体の10.2%。

■メロン輸入量の推移



- 国内の生産量が減少する中で、輸入量は横ばいに推移している。

■輸入メロン価格の比較

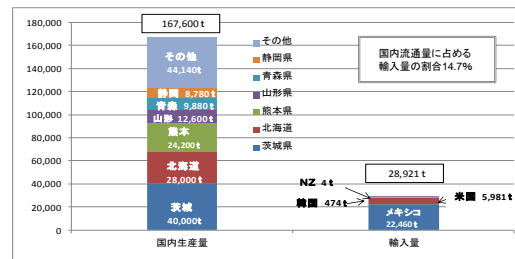
(H26 東京都中央卸売市場年報)

産地	単価(円/kg)
全体(国産+輸入)	469
山形県	305
アメリカ	207
ニュージーランド	619
メキシコ	151

- アメリカ産やメキシコ産のメロンは、カットフルーツ用としてネットのない「ハネジャー」種が輸入されている。国産品に比べ糖度が低く、品質が劣ることから市場価格は全体平均の半値以下となっている。
- ニュージーランドは、日本向けに生産し、2~3月に少量、高価格で輸入されている。

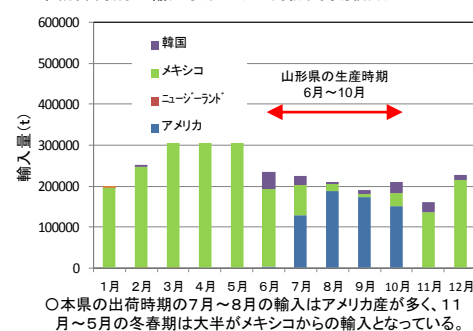
■国内生産量と輸入量(H26)

(農林水産省野菜生産出荷統計 財務省貿易統計)



- 国内の生産量は約17万tで、本県は7.5%の1.3万t。
- 輸入量は約2.9万tで、国内流通量に占める割合は約15%。メキシコからの輸入が多い。

■国別、月別の輸入状況 (H26財務省貿易統計)



■輸入メロンと競合が想定されるマーケット(イメージ)

- 輸入メロンの大半は、カットフルーツの原料として周年で輸入されている。メキシコや米国産のメロンは、「ハネジャー」種で、大玉でネットがなく、本県産「アンデス」などに比べて、品質や食味は劣るため、用途や価格帯で住み分けされている。
- ニュージーランド産のメロンは、日本向けに栽培しており、2~3月に少量輸入されているが、輸送コストの関係で高価格となっている。

■関税撤廃の影響イメージ

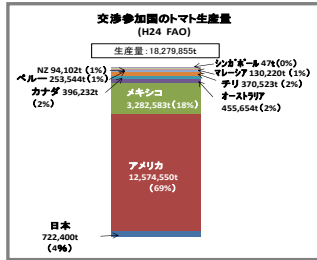
- 県産メロンは品質・食味ともに優れ、市場から高く評価されており、品質・食味・価格帯や用途で輸入品(カットフルーツ向け)と住み分けされていることなどから、価格低下への影響は小さいと考えられる。

TPP協定による本県農林水産業への影響⑨<野菜(トマト・アスパラガス)>

【園芸作物(野菜)】

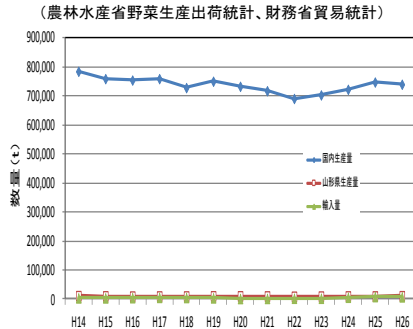
【トマト】 (大筋合意内容：現行関税率3%→発効時に即時「撤廃」)

■ 交渉参加国の生産量

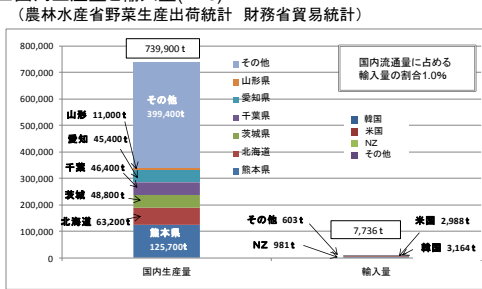


○TPP交渉参加国で植物検疫上も問題なく日本に輸出できるのは、上記の国のうち5カ国(アメリカ、メキシコ、カナダ、ニュージーランド、チリ)で、その生産量は約1,672万tで、アメリカ、メキシコの生産が多い。
○日本の生産量は交渉参加国全体の4.1%となっている。

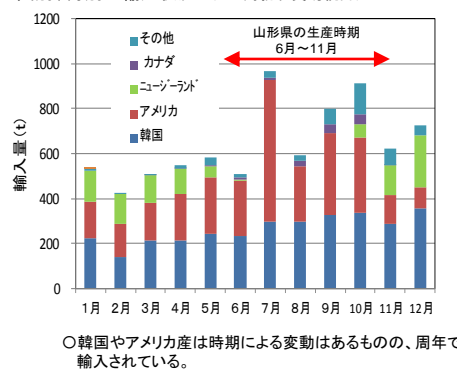
■ トマトの国内生産量と輸入量の推移



■ 国内生産量と輸入量(H26)



■ 国別、月別の輸入状況 (H26財務省貿易統計)



■ 輸入トマトと競合が想定されるマーケット(イメージ)

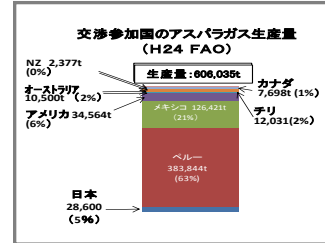
○輸入トマトは、果肉が硬めて、ゼリーが少なく、食味が淡白であり、国内産の生食用とは品質が異なる。
○輸入品の大半は、ハンバーガー等の加工・業務用で利用されているが、一部、首都圏の外国人客が多い量販店なども取り扱われている。
○輸入品の価格は、輸送コストの関係で国産トマトより高価格となっている。

■ 関税撤廃の影響イメージ

○良食味の国内産トマトが周年生産されているから、生食用としてTPP交渉参加国から輸入が増加することは考えにくい。
○現行の関税率が比較的低いこと、安全・安心及び鮮度に対する国民の関心が高いこと等から、価格低下への影響は小さいと考えられる。

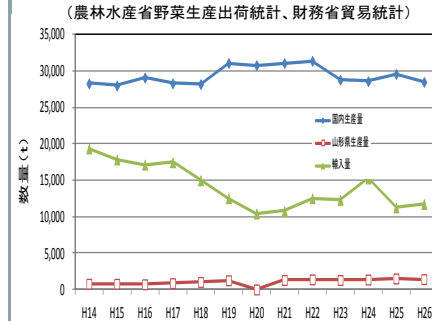
【アスパラガス】 (大筋合意内容：現行関税率3%→発効時に即時「撤廃」)

■ 交渉参加国の生産量



○TPP交渉参加国で植物検疫上も問題なく日本に輸出できるのは、上記の国すべてで、その生産量は約58万tでペルー、メキシコの生産が多い。
○日本の生産量は交渉参加国全体の5.0%となっている。

■ アスパラガス輸入量の推移



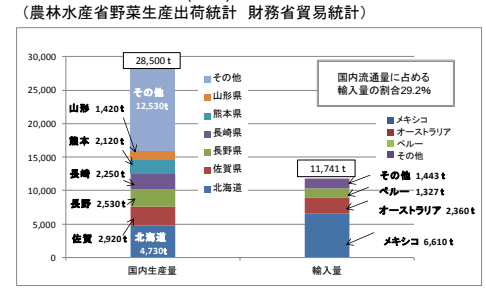
■ 輸入アスパラガス価格の比較

(H26 東京都中央卸売市場年報)

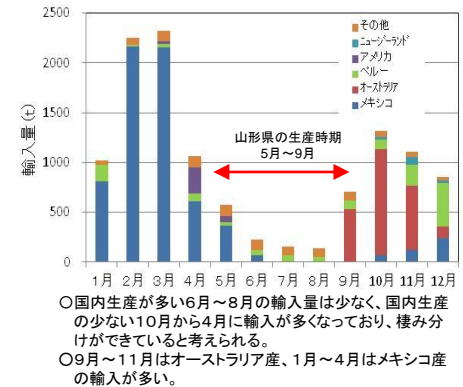
産地	単価(円/kg)
全体(国産+輸入)	1,018
山形県	1,039
メキシコ	666
オーストラリア	860
ペルー	972
アメリカ	803
ニュージーランド	803

○輸入アスパラガスは、品質、食味ともに国産と同程度である。
○輸入品の価格は、国内産より低価格で取引されている。

■ 国内生産量と輸入量(H26)



■ 国別、月別の輸入状況 (H26財務省貿易統計)



■ 輸入アスパラガスと競合が想定されるマーケット(イメージ)

○輸入アスパラガスは、品質、食味ともに国産と同程度であるが、輸入時期は国内生産の少ない10月から4月と住み分けされている。

■ 関税撤廃の影響イメージ

○現行の関税率が3%と比較的低いこと、安全・安心及び鮮度に対する国民の関心が高いこと、今後も国内需要の拡大が期待できる品目であること等から、価格低下への影響は小さいと考えられる。